

委員と陳情者の質疑応答 (要約)	補足 / 住民側の考えと現状
<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">座間味浄水場問題 / 参考人招致 (陳情者)</p> <p>0'00"～委員会進行説明 (新垣清涼委員長)</p> <p>2'36"「参考人から座間味島で計画されている浄水場建設について、陳情提出に至る背景及び目的等について簡潔にご説明をお願いいたします。中村毅参考人、どうぞ」</p> <p>3'00"～</p> <p>【中村毅会長】『座間味浄水場建設予定地の変更を求める会』会長の中村毅でございます。はじめに、水道広域化事業を推進してもらっている県企業局には、厚く御礼申し上げたい。本当にありがとうございます。また、ワッター座間味村長の宮里が、この広域化の提言の第一人者であることも伝聞し、とても誇らしく思っておりますが、<u>今日までのこの混乱は、何とも理解しがたく、誠に残念の極みです。</u>さて、6月18日の第1回目の説明会では、企業局は、7か所の候補地の中から、阿真キャンプ場が選定されたという理由説明があり、その近くの河川を通して、排水はそのまま阿真ビーチへ流すということ聞き、大変なショックで猛反対しました。阿真キャンプ場は、村指定の阿真ビーチに隣接しており、ウミガメやサンゴが生息し、座間味ダイビング協会等が最重要保全区域に指定しているウルヌサチという海域も近いことから、排水の影響を大きく危惧したからです。また、この説明会の数日前に村議会が開かれたのですが、このような情報を当6月18日まで村議の誰も知りませんでした。驚愕しております。「阿真キャンプ場ありき」の説明と並行して、砂浜に近いところでトレーラーハウス設置等の開発工事も始まったため、住民は大変不安視しました。しかし、ただ「ダメ」や要望だけでなく、私たちも企業局の説明書にあった「低地が望ましい」ということを参考に、阿真キャンプ場が変わる用地を探そうと、ダム下流域など地権者に承諾を得たりしましたが、</p>	<p style="text-align: center;">補足 / 住民側の考えと現状</p> <p>→阿真キャンプ場は、鱈業の衰退から島を救った観光業の礎となった場所。島の中でも特に自然が豊かで、それを身近に体験できるキャンプ場として国内外から人気が高く、その陸域から海域全体が、島で最も重要な自然観光エリアです。キャンプ場の前面に広がる内海は、波静かでサンゴが豊かな海で、ウミガメとも出会え、座間味村の「世界が恋する海」を象徴する場所。ダイビングやスノーケルなど、多くのマリン業者が利用し、たくさんの観光客を魅了しています。そのため、この海域を「最重要保全区域」として、ダイビング協会や漁協が協力してサンゴ礁保全活動を行ない、陸域でも、地域住民がビーチクリーンや外来種駆除に取り組み、長年、この一帯の自然環境を保全してきました。</p> <p>→トレーラーハウスの島外業者は、阿真キャンプ場内の劇場型広場の民有地で開発工事を行い、県の許可を得ずに隣接する保安林を伐採してコンクリートスロープを造成し、浄水場建設予定地の「多目的広場」にトレーラーハウス5台を置いていました。</p>

残念ながら企業局はバツ(×)でありました。それから8月1日の説明会では、なお「阿真キャンプ場ありき」だったので、私たちは、景観のこと、排水のことで紛糾し、『見直しを求める会』を発足させた次第です。そうこうするうちに、排水先は阿真ビーチには流さない方向で検討すると、企業局や村のホームページ上でアナウンスがありましたが、具体的にどうするかという説明はありませんでした。排水だけでなく、阿真キャンプ場の多目的広場の問題もあり、住民の民意を示そうと、11月に入ってから署名活動を行いました。公職を除く住民の6割、商工業者の8割が場所の見直しに署名しております。また12月12日の土木環境委員会において、阿真キャンプ場の津波被害のこと、厚労省の指針、浄水場は津波被害のない高台が望ましいと知り、自分たちの勉強不足を恥じましたが、同時に、大変驚いた次第です。以上のことから、私たちは、防災を最大限に考え、また、阿真キャンプ場の多目的広場の将来、先々を考えて、平地ではなく高台案の3か所を提案した次第であります。なお、冒頭に述べましたが、私たちの会に、トレーラーハウス関係者から内容証明が3回も届いたり、また私、会長には、会長職を降りてくれないかという要請もありましたことを付け加えておきます。最後になりましたが、広域化を提言したと伝聞するワッター座間味村長は、残念ながら3回とも説明会には参加されておりません。以上です。

9'25"～委員長「高松明日香参考人」

【高松明日香会長】お手元の配布資料の説明をいたします。今、住民の多くが高台へ浄水場の建設を求めています。まず、大きいA3の地図は、いままで候補地に上がっていた低地も含めた候補地の場所と、白字で津波時の避難場所を記載しています。例えば、右上にある現浄水場の「高月山」、ここは標高約100mで、島の東側の住民が津波時に避難する場所、右手端の「旧ゴミ捨て場」は、座間味集落の東側の住民が避難する「んびり」という海拔37mのすぐ近くだったり、左手側の「阿真チジ」は海拔54mで、そこも阿真集落と座間味集落の西側の住民の避難場所になっています。なので、そういった避難場所に浄水場を造って頂けると、津波の時など非常に安心で

→ダム下流域の224筆の土地を調べ、住民有志で手分けして、島外に暮らす島出身の地主にも連絡を取り、事情を説明し、同意を得ていました。

→住民は、説明会の度に、阿真キャンプ場は「島の宝として守り抜いてきた土地であり、子や孫の将来に残したい場所だ」と企業局に訴えてきました

→『水道の耐震化計画等策定指針』（平成27年6月・厚生労働省健康局水道課）に、「原則として、想定津波浸水地域外の高所を選定」と指針が示されており、沖縄県の『想定津波浸水図』では、座間味村は15.2mの大波に襲われて、浄水場予定地の『阿真キャンプ場』は最大浸水深5.0m以上10.0m未満の海中にすっぽり飲み込まれ、甚大な被害が想定されています。

→1月24日の第3回住民説明会でも、多くの住民が「高台への変更」を希望しました。阿真キャンプ場での建設の見直しを求める住民は、11月に行った座間味島の住民(成人)のみを対象にした署名活動で、成人479名中278名(58%)、95観光事業所中76事業所(80%)が見直しを求めています。(12月10日時点・成人479は島民約600名から、未成年と、村職員、教職員を除いた数)

きるのではないかと考えております。2枚目は沖縄県の『津波浸水想定図』で、7色にランク付けされています。緑が一番低くて、赤くなればなるほど、津波の浸水の度合いがひどくなるものです。それによると、この図の中で、緑や黄色の地域は、想定される浸水が1m未満なので、企業局がよく言われる、厚労省の「原則として津波浸水地域外の高台で」の「原則として」というところは、こういった浸水の浅いところであれば、防水の扉とかでの対応で済むのではないかと。ただ、ご覧のとおり、左手にある現予定地の阿真キャンプ場は真っ赤です。ここは5m～10m津波の被害が想定される場所です。そこに津波が来てしまったら、建屋もろとも飲まれてしまうので、そこは「原則として」というところには当てはまらないのではと住民側としては思っております。想定が浅ければ、まだ「原則として」と言えると思いますが、もう1つ、地図真ん中の下の方に、既存の海水淡水化施設があります。今稼働していて、そこでも水を作っています。そこは海拔2mで港にありますので、もし津波が来た場合、そこは必ず被災します。ということは、新しい浄水場も低いところであれば、両方とも被災してしまうことになるんです。なので、新しく造る浄水場は「リスクの分散」という意味でも、ぜひ高台にして頂ければ安心できるかなと考えております。3枚目は、自然公園法、国立公園の指定区域の色分け図です。今、候補地になっている高台は、「第三種特別地域」です。ランクで言えば、左下に書いてある重要度が高いものから「特別保護地域」「第一種」「第二種」「第三種」「普通地域」。それとは別で「海域公園区域」はもっと重要なものになりますが、陸域ではそのように色分けされています。詳しくは、右側の表が環境省の「第三種特別地域の許可にかかる基準」です。これはまた参考にしてください。住民側の考えとしては、下にまとめていますが、5つの区域に分かれている陸域の中で、オレンジの「特別保護地域」や紫の「第一種特別地域」については、とても自然度が高いので浄水場を建設することは不可能だと思います。ただ、ピンク色の「第二種特別地域」や緑色の「第三種特別地域」であれば、右手の「許可に係る基準」を満たせば、浄水場の建設は可能だと考えております。今のところ高台案に出ている「阿真チジ」「旧ゴミ捨て場」「高月山にある現浄水場、ヘリポートも含め」いずれ

→「原則として」というのは、想定津波浸水地域の色分けで言えば、緑（浸水0.01mから0.3m）や黄色（浸水0.3mから1.0m）の地域であれば、企業局が説明するような防水扉や他島との部品の相互融通といった「減災対策」で、移転まではしなくても良いという意味と考えられますが、阿真キャンプ場のような赤色（浸水5.0mから10.0m）の地域であれば、高台を選定する以外の津波対策は不可能と考えられます。

→既存の海水淡水化施設は、座間味港内の特に海側の海拔2mのところにあり、津波がくれば、一番に被災する場所です。阿真キャンプ場も海拔2mなので、同時に被災する可能性は高いので、自然災害に対するリスクを分散するためにも、新しい浄水場は高台に建設するのが望ましいと考えられます。

も第三種特別地域であり、そこには公共施設があったり、すでに土地が造成されていたりします。第三種特別地域の中でも特に自然的価値というか自然度が低く、かぎりなく普通地域に近い場所です。島全体の中で自然度が低いところであり、津波被害を避けるためだったら、許される場所なのではないかと。住民も決して、自然破壊はしたくないです。「厚労省の指針に従い、想定津波浸水地域外の高所を選定するため」という理由があれば、環境省の許可は得られるのではないかと住民側は考えております。15'35"小さい A4 の資料は企業局が出している渡嘉敷島での新浄水場の設計図で、現浄水場の隣接地に造られる予定です。標高は 120m で、こういった形で擁壁も造られるわけです。2 枚目は実際の今の渡嘉敷の現浄水場の場所（空撮）です。浄水場の斜め上隣の森林部分が新浄水場の予定地になるわけですが、3 枚目は座間味の現浄水場、高月にある現浄水場も標高は 100m くらいで渡嘉敷とほぼ同じ条件のところ。ヘリポートもあり、浄水場もあります。しかも避難場所にもなっていて、すぐ近くには避難道もあります。ぜひこういったところも配慮して、津波被害のない高台に建設して頂きたいと思っております。よろしくお願ひします。16'45"

17'40"～

【座波一委員】 ご苦勞様です。この水道事業の広域化計画は、島民にとっても、非常に大切な事業だということの認識、気持ちには分かりました。建設地に対する反対理由というのが、当初の段階では、海の汚染に対する放流水が懸念されるということでの陳情で、その後、用地買収の厳しい面もあるということもあり、さらに現時点では、津波被害が主たる反対理由と変わってきている。そういう変遷したような気がしますから、当初からの反対理由を、しっかりと整理して、明確に意見を整理した方がいいのではないかと個人的に感じたわけです。この変遷してきた理由というのはまず何であったか、今、整理した結果として、反対の中でも、整理できた問題もあつたはずですが、そういったことについて、どのように整理をしてきたかということをお聞かせください。

19'40"～

→隣の同じ国立公園である渡嘉敷島では、現在使用している高台の既存浄水場の隣接地に新しい浄水場を建設し、既存施設の一部も建て替えて使う予定です。場所は、**標高 120m の『第三種特別地域』**の森林で、**座間味島の高月山**展望所の中腹にある**既存浄水場&ヘリポートと同じ条件**です。

【中村毅会長】 その件に関しては、最初申し上げました通り、私たちは、企業局の「低地が望ましい」ということから、あえてダム下流域を探したものですが、と同時に、排水は阿真ビーチに流さないということだけで、具体的にどのようにするかという技術的なものがまったくなかったことが2つ目、それから、12月12日の土木環境委員会で、厚労省の指針で、新設あるいは開設する時には、できるだけ津波、防災上安全な高台の方が望ましいと、自分たちもそこで初めてその事実を知り、勉強したわけです。コロコロ変わっているのではないかと、反対のための理由を探しているのではないかと思われるかもしれませんが、私たち住民としては、本当にいいものをなるべく長い間、使いたいという気持ちで、できるだけ、いい条件のところを選定してきており、それで変遷したと言われているのかもしれないです。以上です。

21'50”

【高松明日香会長】 排水の面ではそう対応して頂けるようになったのですが、自分たちは、その後の海への影響も考えているわけです。命の水を作る大切な浄水場がキャンプ場にできれば、やっぱりその浄水場を守ろうという方向になると。企業局は建物自体の周りで防災対策をするという話ですが、実際、やっぱりみんなの大事な水を造るものを守るためには、企業局だけでなく他のところで、企業局は造らないと言っても、ビーチに堤防が必要になってきたり、内海に消波ブロックを設置したりするのではと心配が出てきてしまうわけです。もし、そこに造られてしまったら、自分たちは本当はビーチに堤防とか造ってほしくない、けれども、浄水場ができてしまったら、反対できなくなってしまいうんですね。今、みんなの観光資源になっている阿真キャンプ場、「世界が恋する海」の象徴である内海の豊かなサンゴの海、そこがそういった堤防とか消波ブロックとか人工物が入れられてしまうと、観光業としては大きな打撃になると思います。沖縄県で言えば、防災課が海岸保全基本計画というものをしています。その中で、阿真ビーチは、「自然が豊かで防護対象がない」という条件の上で、積極的に守るべき場所に指定されているんです。でも、浄水場ができてしまったら、その条件から外れてしまう。計画書の表紙、

→ダム下流域の224筆の土地を調べ、住民有志で手分けして、島外に暮らす島出身の地主にも連絡を取り、事情を説明し、同意を得ていました。

→県海岸防災課の『琉球列島沿岸海岸保全基本計画』で、阿真ビーチは、「自然環境が良好で、背後に防護対象がない」ことを条件に、「海岸環境を積極的に保全する区域」に指定されています。浄水場は、最も重要な防護対象なので、その条件から外れることになります。

これは阿真ビーチなんです。これは島の人にとって、誇りです。それを失ってしまうことになります。

24'00～

【座波一委員】この高台案は、第三種特別地域と環境省が定めるもので、先ほど、それほど厳しいものではないという説明がありましたが、間違いなく、これは環境省が定める地域であって、森林開発、あるいは造成工事に対する影響は、やはりそれなりに出てくるわけなんです。海を守るのも当然ですが、海を守ることは、山を守ることでもあるわけです。だから自然を守るという点においては、同じく等しく見ていかないと、私は、陳情者の要求を否定する意見を言っているわけではないですが、行政としては、あらゆる条件を勘案した上で、最小限の財源で最大の効果を出すために、常日頃からベストのところを選んできた結果が今の場所で、それから言うと、高台に設置した時の課題があるはず。それに対する懸念はどう捉えていますか？例えば、幅員が狭いとか、造成時の費用がかさむとか、あるいは将来的に地すべりの危険性も出るとか、見方を変えれば、そういった部分も出てくるが、どうお考えですか？

25'55”

【大城晃副会長】この高台の3案というのは、いずれも公道に隣接した場所です。おっしゃる通り、何らかの整備や造成はしなければなりません。陸上なので、我々もできるだけ建設に協力し、自然被害がないような監視もしようと思っております。ただ、海と隣接している、海のそばに造るというのは、今の山の既存の施設、平地に造成するより、海の汚染の方が、もっとダメージが、損失が大きいんじゃないかと思っております。

26'55”

【座波一委員】第三種特別地域においては、造成も困難であるというような部分があるが、環境省の許認可で、どうしても手続きが遅れてくる。今現在でも半年遅れ、さらに調査を入れると約1年くらいかかり、完成まですると合計、まだ2年以上かかるとなると、平成33年度の交付金に間に合わないんですね。そういう事態が発生することは、県として非常に懸念するところです。広域化事業で、それを待っている他の離島もあり、座間味を

→『浄水場等建設候補地の選定（座間味村・渡嘉敷村地内）報告書』（平成29年3月・沖縄県企業局配水管理課）における、阿真キャンプ場と、高台の阿真チジの両候補地の比較（P.3）は、下表のようになっています。

	阿真キャンプ場	阿真チジ
初期投資費 （管路整備費と造成費の合計）	約5億4700万円	約6億2900万円
ランニングコスト （年間動力費）	約190万円	約190万円

初期投資費の差は、約8200万円であり、総事業費30億円の事業で、甚大な津波被害が想定される場所と、津波被害のない場所を比較検討した結果、最終的に津波被害の甚大な阿真キャンプ場が選定されたことに、大きな疑問を感じます。

また、**高台の「高月山」「阿真チジ」「旧ゴミ捨て場」の3カ所とも、「土砂災害警戒区域」等には指定されておりません。**

済まして、次にやってくれという中で、予断を許さない状況になるものですから、そういう環境省の許認可について、どのようなことが心配されるのかというのは、考えていらっしゃいますか？

28'05”

【大城晃副会長】広域化事業での座間味以外の島の浄水場建設は、ほぼ山の上、高台です。隣の渡嘉敷村も高台で、現既存の施設の隣、それも同じような第三種の制限がかかっている場所なんです。向こうでは環境省の問題はクリアできていると伺っています。座間味の場合も、隣の渡嘉敷村の手続き例を踏まえれば、そこまではかからないのではないかと考えており、もちろん、私たちも歩調を合わせて、一緒にがんばっていきたいと思っております。

28'45”

【座波一委員】最後になりますが、この広域化事業によって、座間味の皆さん、離島の皆さんに、非常に、条件を整備して良くしようとする事業ですので、我々もこの問題を議会で賛成反対するという立場ではありませんが、ぜひとも、何らかの形で、住民がこの問題で分裂することはなく、村民にとって良い施設になるよう、納得のいく中でやるように。だから、問題がクリアしている部分は了解して、例えば、放流水の問題は、切り回して港に放流するという事は決まっています説明もあつたはずなので、こういうところは認めて、それでもなおかつ、なぜ自然に対してあの場所じゃ悪いんだということをもっともって理詰めで説得しないと、なかなかこれまで決めてきたことを変えるということは、かなりの労力が必要ですから、そこも含めて、しっかりと説明していかなければいけないだろうなと思っております。何か意見があれば。

30'10～

【高松明日香会長】今、心配されていた交付金の期限については、企業局から自分たちは、33年度までが一括交付金の期限だと説明を受けています。ただ、内閣府の沖縄振興一括交付金で言えば、事業費の交付期限は「37年度」までになっています。県保健医療部の基本計画の中でも、どの島も「37年度」までが期限で計画されています。その整合性という

→『浄水場等建設候補地の選定（座間味村・渡嘉敷村地内）報告書』（平成29年3月・沖縄県企業局配水管理課）の「慶良間諸島国立公園での浄水場等建設について」（P,61）には、下記の「許可基準を満足すれば良いものとする」との記述があり、

第三種特別地域への建設は可能との認識だったと考えられます。

第三種特別地域における一般建築物の新築等における許可基準概要

- 植生の復元が困難な地域等でおこなわれるものでない
- 主要な展望地から展望する場合の著しい妨げにならない
- 山稜線を分断する等眺望の対象に著しい支障を及ぼさない
- 屋根・壁面の色彩や形態が風致景観と著しく不調和でない
- 土地勾配：30%以下
- 公園事業道路等の路肩から20m、それ以外の道路から5m以上離れている
- 敷地境界線から5m以上離れている
- 高さ13m以下
- 建築面積：2000㎡以下 等

「高月山」「阿真チジ」「旧ゴミ捨て場」の3カ所とも、すでに造成されていたり、人工物が建てられていたりする場所であり、上記の許可基準を満たしながら浄水場を建設することは十分可能だと考えられます。

→今のところ候補に上がっている高台は、すべて『**第三種特別地域**』で、自然公園法の特別地域の中でランクは一番低いため規制は少なく、「特別地域のうちでは、風致を維持する必要性が比較的低い地域」です。もちろん、自然破壊はできるだけしない方がいいですが、既存の水道施設や電波塔、ヘリポートや遊歩道など人工物があつたり、数十年前は全面的に伐採された二次林だつたりと、すでに人の手が入っていて自然度は低い場所です。

→内閣府のハード交付金の活用事業として『本島周辺離島施設整備』も「総事業費：202億円、事業期間：平成28年度から平成37年度」、県保健医療部の『沖縄本島周辺離島8村における広域的水道施設整備基本計画』も平成37年度までの予算組みで、今回の離島8村の広域化に伴い、企業局が厚労省から受けた『**第11**

か、矛盾が分からないので、ぜひ県議の皆さんに、企業局に確認してもらえたらと思っております。よろしくお願いいたします。

31'15"～

【仲村未央委員】おはようございます。今日は来てくださって、ありがとうございます。低地に造ることの津波のリスクについては、資料でよく分かりました。説明の中に、住民のうちの6割、事業者の8割の皆さんが、現阿真キャンプ場用地について反対だと意思表示があるとのことでしたが、そこまで住民の皆さんが、阿真キャンプ場に造られることに懸念や心配、反対するということのその意味というか、もちろん、津波被害が心配で低地を避けたいということですが、この阿真キャンプ場そのものに、さっきも写真とか見せて頂いたが、もっと住民の思いがあれば、もう少し聞かせて頂けますか？

32'40"

【大城晃副会長】阿真キャンプ場は、座間味青少年旅行村というゾーンの中の1つなんです。座間味青少年旅行村というのは、復帰前後に旧運輸省の補助で整備され、伊江島青少年旅行村、渡嘉敷村青少年旅行村、全国に80か所程、いわゆる離島過疎地域の青少年の健全な育成と活性化を目的に整備された青少年旅行村なんです。開設にあたっては公費が投じられています。それからキャンプ場として発展し、今の団塊の世代頃から、座間味の観光の礎になったのは、キャンプ場からなんです。もちろん今もキャンプというすばらしいレクリエーションがあり、そこに多目的広場があって、そこにドーンとプラントができる、それを聞いただけで、なんか背中の凍る思いがしました。しかも頭ごなしだったんです。第1回の説明会で。さらにこのゾーンの整備に平成5年にも県や国の公費を投じて、沖縄コミュニティアイランド整備事業、クジラの里整備事業というのがあり、そこで新たなコテージ、テニスコート、レジャープール新築とキャンプ場や炊事場の改築を2億2千万以上の金が投じられて造られているわけです。我々にとって愛着のある、どんどん整備して行って、野外活動の場として親しまれてきた場所なんです。最初に反対した理由はそういったところにコン

回変更認可』の目標年度も平成37年度となっております。

[企業局ホームページ>右上「事業紹介」>沖縄振興公共投資交付金ハード交付金活用事業]

[企業局ホームページ>右上「事業紹介」>水道用水供給事業「2 事業計画の変遷」]

→住民は、説明会の度に、「島の宝として守り抜いてきた土地であり、子や孫の将来に残したい場所だ」と企業局に訴えてきました。

→阿真キャンプ場は、鱈業の衰退から島を救った観光業の礎となった場所。島の中でも特に自然が豊かで、それを身近に体験できるキャンプ場として国内外から人気が高く、キャンプ場を中心とした陸域から「世界が恋する海」を象徴する海域全体が、最も重要な自然観光エリアです。現予定地の多目的広場は、広々とした草原で、観光客に解放感や癒しを与え、珍鳥ヤツガシラなど渡り鳥が羽を休める貴重な探鳥地でもあり、子どもたちの自然体験や環境教育の場にもなっていて、夜には、静寂の中で満天の星空や蛍が観察できます。さらに、水難事故など緊急時にはドクターヘリが離発着する、まさに多目的に活用されているキャンプ場の一角です。

クリートのプラントができるということがみんな大変なショックだったんです。それから放流先がどうかとか、低地が望ましいということだったので、キャンプ場に代わる低地を、地主を説得して探しました。ところがそれでもキャンプ場の方がいいとすったもんだしているうちに、県議会の中で出てきた津波被害。海岸のビーチのすぐそばなので。我々は勉強不足で、津波のことを知らなかったです。だから、最初の景観上の問題、目的と違うものが建つ、というものから、さらに膨らんで今、津波被害のことが出てきたので、厚労省の指針、今のハザードマップにあるように、これは、電気水道ガスのうちの事業主体が村である水道事業、我々が利用する水ですから、ぜひ津波被害のない場所へ建設してもらえないかというのが願いです。キャンプ場そのものに愛着があるのは、以上述べた長い経緯があつてですね、ということです。

36'10"

【仲村未央委員】つまりは高台に造ってほしいという前に、そもそも、このキャンプ場を守りたいということが先にあるということですよ。先ほど、冒頭の中村さんの中かな、ちょっと短かったので、よくわからなかったんですが、トレーラーハウスの開発があるとか、どういうことか意味がちょっと分からないんですけども。

36'50"

【又吉英夫会長】まず、最初に、座間味村観光大使の関係者のブログを見たんですが、抜粋していますので、ちょっと読み上げます。「2018年の6月26日、座間味にて仕事」ジャンジャンの前の建設予定地のところ、「レベル見て、地縄張って、座間味村の役場の方々とも、打ち合わせ」って書いてあるわけなんです。7月4日には、「座間味リゾート計画」と名前が出てきたんです。「の進捗、座間味港、阿真ビーチの2か所で、まったく新しい宿泊施設の設備を設営する」とこういうのが、いっぱい出てきて、この中で、座間味リゾート計画が出てきたわけです。そして、それを8月1日の第2回目の住民説明会で、このトレーラーハウスのことを説明してくれと言った住民と言っていない住民にも、観光大使から「10日以内に回答がなければ、刑事・民事を問わず、法的手段を検討する」

→キャンプ場ができた約50年前から、地主の島の先輩方は、村との賃貸契約を守り、バブル期などの島外からのリゾート開発等の手にも渡さず、観光資源であるこの一帯の自然を、島の宝としてみんなで守ってきたからこそ、国立公園にも指定されたと自負しています。島には平地が少なく、小さな島の限られた平地は有効利用すべきで、何も建っていない多目的広場は、今後の島の観光振興にも可能性のある場所で、未来の子どもたちに残したい場所です。

→トレーラーハウスの島外業者である観光大使が、阿真キャンプ場内の劇場型広場「ジャンジャン」の私有地の農地で、農業委員会の許可を得ずに開発工事を行い、隣接する県の保安林区域まで伐採し、県の許可を得ずに盛土をしてコンクリートスロープを造成しました。(平成30年3月28日～)

→劇場型広場「ジャンジャン」での開発工事は、座間味村観光大使が行っていたのに、測量は村の予算で行っています。

という内容証明が送られてきたわけです。それが第1回目でした。それに対して、住民はものすごく恐怖を抱いております。(座喜味委員「もうすこしまとめた方がいいんじゃないの」)はい、すみません、以上です。

38'50"

【仲村未央委員】いや、いいんですけども、トレーラーハウスとリゾート計画と、今の内容証明の話のつながりがよく分からないんですね、つまり、浄水場の話と、トレーラーハウスとリゾート計画が何の関係があるんですか？さっきの写真は何ですか？そのつながりをもう少し。

39'25"

【高松明日香会長】先ほど、大城さんからもありましたように、阿真キャンプ場は、50年以上前から村がキャンプ場用地として賃貸契約をして、民有地を借り上げている場所なんです。島の人たちの民有地を借りてキャンプ場を運営してきている。そこにバブル期とかに、いい場所だから、内地からのリゾート計画とかそういったものも持ち上がったんです。でも、住民はみんな反対した。やっぱり島の財産だから、島外業者に渡したら良くないということで、今の島のおじいおばあたち一生懸命守ってきた場所なんです。だから、みんな思い入れが強いんです。その中の一角の多目的広場が浄水場予定地になっていて、そこにトレーラーハウスが置かれていたんです。3ヵ月間。で、あれはなんですか？と、6月の村議会で村議から質問がありました。それに対して、村役場は「あそこは島の土地だから」と答弁しています。住民側としては、民有地をキャンプ場用地として借りている場所なのはどうなんだろうと、その辺が分からないので、ぜひその辺りも企業局に確かめていただきたいです。それと、建設予定地にトレーラーハウスがずっと置かれていて、外部業者なので、島外からの開発が進むのではないかとみんな心配したわけです。なのに、村は「知りません」。8月1日の説明会で住民が、企業局に何か知ってらっしゃいますか？と質問したら、企業局も知らない。でも、ここに置いてある。3ヵ月間。ということで、みんな混乱しているし、そういった内容証明などが送られてきて、非常に恐怖を感じているんです。みんな怖い思いをしています。

→平成30年3月末から、キャンプ場内の劇場型広場「ジャンジャン」でリゾート開発の工事が始まり、そこに置く予定だったトレーラーハウス5台が、浄水場建設予定地である「多目的広場」の用地に3ヶ月間置かれていました。(5月23日から8月30日まで)

→平成30年6月12日の座間味村議会において、宮平譲治議員の「トレーラーハウス、今、恐らく村が借りているキャンプ場用地に置かれていると思うのですが」という質問に対し、総務・福祉課長が「今現在、トレーラーハウスが置かれているところは、実際、村の借りている土地ではなく、あちらは今、現に申しますと、沖縄県の土地となっております」と答弁しています。[平成30年第2回座間味村議会・議事録P.21]それにより、住民はますます混乱しました。

→8月1日の2回目の住民説明会では、建設課長が「今日も現場に行って拝見し、前回6月に行った際にも置かれているのを見たが、関係ない」と答弁しています。

38'50”

【仲村未央委員】今の写真、これは、浄水場建設予定地そのものですか？（高松「はい、そのものです」）そこが、今のお話だと、予定地にトレーラーハウスが置かれていて、それが県の土地だということが？（高松「村の村議会で答弁されました」）県は土地買っていませんよね？（高松「はい、そのはずです」）ここは民有地ですよね？（高松「はい、個人の」）ここは予定地。（高松「はい、予定地です」）え、内容証明は、何に対する内容証明ですか？

42'05”

【高松明日香会長】説明会の中で、みんなが不安に思っている、トレーラーハウスが建設予定地に停めてあるのは、なぜですか？企業局は把握していますか？というような内容を聞いたところ、もちろん、個人的な名前とか一切出していないですが、その発言したことに対する根拠や経緯を説明してほしいと。そういう説明、回答がなければ、法的手段を取るという内容です。

42'40”

【仲村未央委員】今の写真トレーラーハウスを所有している業者から内容証明が来たという理解でよろしいですか？

42'45”

【高松明日香会長】代理人弁護士ですね。

42'50”

【仲村未央委員】今はそのトレーラーハウスは、どうなったんですか？浄水場予定地とされた当初の場所はどのような状況になっているんですか？

43'00”

【高松明日香会長】説明会で問題になりましたし、前々から、観光客も嫌がっていて、声が高まったので、キャンプ場の浄水場予定地から出されました。ただ、村内の集落の中に置かれている状態です。

43'20”

【仲村未央委員】こちらで確認すべきことがあると思うんですけど、県は、土地はまだ買っていませんはずで、今回、予算にまさに計上されたばかり

→手紙を受け取った住民はとても怖かったのですが、住民の誰にも相談せず、ずっと黙っていました。説明会以降「阿真キャンプ場での浄水場建設に反対したら、訴えられる」という噂が島内に広がっていたからです。もし、実際にそういう手紙が届いたと住民に知れたら、みんな怖がり、純粋に阿真キャンプ場を守りたいと思う人が声をあげられなくなると心配したためです。しかし、島内外からの圧力もひどくなり、2回目の手紙を受け取った頃には、精神的につらくて仕方なくなり、陳情者でもある島の先輩に打ち明けたところ、「なぜ、黙っていた。これは、島みんなの問題だから、みんなで解決しよう」と言っただき、今回の参考人招致で、勇気を出して明らかにしました。が、今でも怖いんです。

→トレーラーハウスを所有している島外業者の代表取締役が、座間味村観光大使でした（当時）。平成24年から観光大使に就任し、6年間任務していましたが、昨年の平成30年10月頃、観光大使を辞めたそうです。

→平成30年3月末から阿真キャンプ場内の劇場型広場「ジャンジャン」でリゾート開発の工事が始まり、そこに置く予定だったトレーラーハウス（エアストリーム）5台が、5月23日から、浄水場建設予定地である多目的広場の用地に、3ヶ月間置かれていました。8月1日の2回目の住民説明会で問題が表面化したため、8月30日にキャンプ場から出されましたが、座間味集落内の民有地に置かれています。

なので。ただ、先ほどからの話、いきさつを聞くと、そもそも、その開発に対して、非常に、村民の皆さんが大事に守ってきた土地だということが分かりましたので、もう時間も限られておりますので、ありがとうございました。

44'00"～

【赤嶺昇委員】今日はお忙しい中、わざわざ座間味村から来て頂き、ありがとうございます。最初に、「座間味浄水場建設予定地の見直しを求める会」の中村会長、「会長を辞めてくれ」と言われたことを少しおっしゃっていましたが、これ、どういう意味ですか？どこから言われたんですか？

44'30"

【中村毅会長】どこからと言いましても、個人的名前は差し控えさせて頂きませんが、「村」からということで、考えてよろしいと思います。日には、ちょっと定かじゃありません、僕も記憶力があまり良くないので。

44'45"

【赤嶺昇委員】こういう陳情が出て、去年から僕らかなり審議している中で、村の方から「会長を辞めてくれ」と。さっき座波委員も言われていたが、村民があまり分断されない方がいいと僕ら思っていますね。ただ、署名がこれだけ集まっていて、署名についても、企業局は「あれはウミガメだよ」と署名を集めたと僕は説明を受けたけども、その後の事案の署名ということも聞いているし、あれだけ小さな島で、これから皆仲良くしていかなければならない大事なことの中で、会長を辞めてくれということ村に言われるとですね、そういうことが非常に心配じゃないかなと私は思います。これについて、ご見解を聞かせてください。辞任を求められたことに対して、今後、島ですべて暮らしていく中において、どうですか？

45'50"

【中村毅会長】そこまでは、考えたことない、毎日、顔を合わせますから、いつかは、わだかまりも取れて、元の付き合いはできるということは思っております。

46'10"

→副村長と担当課長から話がありました。平成31年2月頃のことです。

→この署名は、本当の民意を知りたいということで、村役場と企業局には絶対に見せないという条件の下11月に、座間味島に住む住民（成人）を対象に署名を募りました。その際には、8月23日に企業局と村長が同時にHPでリリースしたコメントの中で、「予定地の脇を流れて阿真ビーチにそそぐ河川には放流せず、放流先及び放流方法については再度検討する」という企業局の方針と、「予定地の脇を流れ阿真ビーチにそそぐ河川には放流しないとの決定を示していただくことができました」という村長の言葉は、ほとんどの住民が知っていました。また、それを確認した上で、今の現状を説明しながら、署名活動は行いました。成人479名中278名（58%）、95観光事業所中76事業所（80%）が見直しを求めています。（12月10日時点・成人479は島民約600名から、未成年と、村職員、教職員を除いた数）。また、平成31年1月24日に行われた第3回住民説明会でも、多くの住民が「高台への変更」を希望しました。

【赤嶺昇委員】これ、後ほど、村長に聞いてみようと思っております。それと、今、トレーラーハウスの件も出たり、あと内容証明も来ているということですが、この中で、皆さんが内容証明を受け取ったのですか？

(しばらく間がある)

46'35”

【高松明日香会長】..自分ですね。はい。連名で、発言した人間と、自分は発言全くしていないんですが、なぜか自分の名前も連名で、はい。

46'50”

【赤嶺昇委員】これ、いわゆる内容証明とは、代理で弁護士何名から？

47'00”

【高松明日香会長】4人ですね。弁護士4人の印鑑が付いてあって、こういった形で内容証明が届いております。

47'10”

【赤嶺昇委員】高松さんは、そこで、企業局の説明会でそういう発言をされたんですか？

47'20”

【高松明日香会長】一切していません。

47'22”

【赤嶺昇委員】分かりました。だから、こういうふうにな、一般人に内容証明が届くとですね、一般の方はみんなびっくりするんですよ。10日以内に返事してくれとか、さっき聞いたら、1回じゃないんですよ？何回来ているんですか？

47'35”

【高松明日香会長】3回です。

47'40”

【赤嶺昇委員】企業局の説明会に参加して、説明をする、住民の合意を得ようとする、発言も自由だと思いますよ。ところが、発言していないところにも内容証明が届くとか、だから、非常に懸念しています。私は、議会で津波のことを代表質問で取り上げさせてもらいました。これから、公的な資金を導入する中において、県が最初「低地が望ましい」と言っ

→手紙を受け取った住民はとても怖かったのですが、住民の誰にも相談せず、ずっと黙っていました。説明会以降「阿真キャンプ場での浄水場建設に反対したら、訴えられる」という噂が島内に広がっていたからです。もし、実際にそういう手紙が届いたと住民に知れたら、みんな怖がり、純粋に阿真キャンプ場を守りたいと思う人が声をあげられなくなると心配したためです。しかし、島内外からの圧力もひどくなり、2回目の手紙を受け取った頃には、精神的につらくて仕方なくなり、陳情者でもある島の先輩に打ち明けたところ、「なぜ、黙っていた。これは、島のみんなの問題だから、みんなで解決しよう」と言っていたら、今回の参考人招致で、勇気を出して明らかにしました。が、今でも怖いんです。

→手紙を連名で受け取った2人のうち1人は、阿真キャンプ場や浄水場についての発言はしましたが、トレーラーハウス関連については、一言も発言していません。

→1回目は平成30年8月17日、2回目は11月10日、3回目は平成31年3月7日です。いずれも発言の根拠などの説明や謝罪を求めるもので、「10日以内に回答なければ、刑事・民事問わず、法的手段を検討する」という内容です。

ていることもどうかと思うんですけど、国の指針において、僕ら、3.11も経験しているし、私は高台に造った方がいいと思ってますよ。海と山の景観、自然もいろいろいいかもしれませんが、住民のいわゆる多くの観光客が来る中において、万が一、地震津波が来た時、みんな閉じ込められますし、やっぱり水というのは命に関わる問題ですから、津波が来た時に、県は隣の島から機材を持ち込むと言っていますが、津波が来たら、本島も隣も全部一緒ですよ。だから、その説明が、申し訳ないですけども、県からの説明では、私は全然、納得していません。この間の議会の委員会の答弁です、隣の渡嘉敷島は、120mの高台にあるということを担当課長は答弁をしきれない。渡嘉敷島は高さ何mのところにあるんですかと言ったら、資料を持ち得ていないと言うわけですよ。で、その後、途中で、実は120mという言い方もするし、本当に分らんかー？という話なんです。かたや座間味は5m、渡嘉敷は120mで、渡嘉敷はできるのに、座間味はできないというのは、やっぱり我々からすると、同じ島で、津波が起きた時に大きな被害が起きるといことは、もう…。県の事業であっても、僕ら県議会議員それぞれが問われている問題だと思いますよ。公的な資金を導入するにあたって、津波の被害があった時に、責任が取れないということは、これは問題だと、私個人的には思っていますが、皆さんはどう思いますか？それぞれ4名一言ずつでもいいから。

50'10”

【中村毅会長】まさにその通りだと思っております。

50'20”

【又吉英夫会長】私も津波が来た時に、1つ平地にもありますから、皆さんの言うように、1つ高台に必要かなと考えております。

50'40”

【大城晃副会長】村の策定した地域防災計画においても、災害の想定の津波という部分においても、今の建設予定場所は、全部海の中になるんです。我々は、村の誘導によって、年に1回、津波の避難訓練があり、それぞれ指定された高台に行くんです。その指定された高台に行く、避難の趣旨と全然、矛盾した場所に造るというのが、理解できないんです。

→座間味島は人口600人ほどですが、年間10万人の観光客が訪れ、トップシーズンには1日1000人が滞在します。観光客も一緒に閉じ込められることは、大きな心配です。座間味島には、大量の水を確保できるような清流もなく、飲み水を買って求められる大型スーパーもないです。沖縄本島から40km離れています。島の港湾も津波被害を受け、さらに沖縄本島など近隣の島が同時に被災することも想定されるので、島外から支援を受けての復旧は時間がかかると思われます。「安心安全な観光地」になりたいです。

→今回の本島周辺離島8村のうち、座間味島以外の島のほとんどが、津波被害を受けない高台に浄水場が造られます。5~10mもの甚大な津波被害が想定される場所に浄水場が造られるのは、座間味島だけです。

51'30”

【高松明日香会長】座間味は本当に小さな島で人口 600 人しかいないですが、年間 10 万人の観光客が来ます。島のほとんどの人が観光業をしています。観光の島で本当に自然すばらしい、そういう中で、浄水場は被災するかもしれない、もし被災した場合、台風は予測がつくので、前もって早めに本島に出しますけども、津波は閉じ込められる危険性もある、そういったお客さんの心配もしないといけませんし、お客さんの不安もあると思うんですね。やっぱり観光地としても、安全で安心できる島になってほしいと思っています。

52'20”～

【玉城武光委員】本当に、今日のご苦労様です。これまで委員会で、皆さんの陳情もいろいろ審議しましたが、今日分かったのは、村議も誰も知らないうちにこの場所が選定された。それで、いろいろ問題が出てきたということが話されてましたが、先ほど、中村さんが言っていた、村長は 1 回もそういう説明会に来ていないということは事実なんですか？

53'10”

【中村毅会長】別な公務もあって大変でしょうから、たまたまかもしれませんが、3 回とも出席はされておられません。

53'20”

【玉城武光委員】それから、私たちも初めて聞いたのですが、そのキャンプ場は「青少年旅行村」として建設された経緯があると。そこには公的なお金も入っていると、観光客も、私も 25 年前くらいに座間味へ、高校の同級生も何名かいて、行ったことがあるんですが、非常にいいキャンプ場なんですよ。静かな海があつて。そういうところに、浄水場が造られるということで、皆さんはいろいろ観光の面から、それから津波の問題から、心配をして。ここよりは高台だとか中ぐらいのところとか、いろいろ提案をして、議論は尽くされた。しかし、まだ決まらないということですが、そのトレーラーハウスで、これは脅迫と言え、脅迫と言えと思うんですが、内容証明書付きのもの送られてくると。これは非常に、大

→平成 30 年 6 月 12 日の村議会では、6 月 4 日から制限給水が始まったということもあり、多くの村議が水道問題について質問し、村は水道広域化についても答弁していたにもかかわらず、6 月 18 日に浄水場建設の説明会があることや、阿真キャンプ場が建設予定地になっていることなど、全く触れられていないです。また通常は 1 週間以上前に貼り出される説明会の案内ポスターも、村議会終了後に掲示され、地元の阿真区においては直前の 3 日前でした。意図的に隠していたようにも感じられます。

→経業の衰退から島を救った観光業の礎となった場所。島の中でも特に自然が豊かで、それを身近に実体験できるキャンプ場として国内外から人気が高く、キャンプ場を中心とした陸域から「世界が恋する海」を象徴する海域全体が、最も重要な自然観光エリアです。住民は、説明会の度に「島の宝として守り抜いてきた土地であり、子や孫の将来に残したい場所だ」と企業局に訴えてきました。

→手紙を受け取った住民はとても怖かったのですが、住民の誰にも相談せず、ずっと黙っていました。説明会以降「阿真キャンプ場での浄水場建設に反対

きな問題だと私は思いますから、後で、村長にも聞こうかと思いますがね。ぜひ皆さん、がんばっていろいろ論議を尽くして、隣の渡嘉敷村は高台にある、なんで座間味村ができないかということも、よく企業局とも相談をして、高台の方に、ぜひ建設するためにがんばってほしいと思います。一言でも。

55'50"

【大城晃副会長】一縷の望みと言いますか、大きな激励をありがとうございます。私たちは、この4名だけではなくて、多くの村民と観光客の安心安全のために、ぜひ津波災害のない高台に設置を望んで、また運動していきたいと思います。今後とも、よろしくお願いします。

56'30"～

【糸洲朝則委員】これまで何度か皆さんの陳情を見たり、それを議論したりしていますので、今日は、皆さんからの正直なところをお聞きするということが、むしろ私にとっては良かったと思います。したがって、このキャンプ場を守る、海を守ることからスタートして、その辺のことが惹起して、高台へというふうになったというのも、よく分かりました。それで、皆さん3か所の候補地の選定をされたが、その選定に至るまでのプロセスを教えていただきたい。どういう経緯でこの3か所を選定したのかを。

57'20"

【高松明日香会長】2か所は、県企業局がもともと候補地に上げていた場所です。地図で言えば、左側の真ん中程の「阿真チジ」、それと右側端にある「旧ゴミ捨て場」。企業局から時間がないと再三言われていましたので、自分たちで新しい候補地を探すよりは、もともと候補地に上げていた所の方がやりやすんじゃないかということで、できればそこを見直してほしいと。もう1つは、右側上にある高月山の現浄水場がある場所です。そこはずっと何十年と浄水場があった実績のある場所なので、今、心配されている土砂災害などの心配もあまりないかと。あと景観上も、今まで住民も、観光客にとっても、浄水場があった場所という認識がある場所なので、そこに浄水場を造られることに関して違和感はないかな

したら、訴えられる」という噂が島内に広がっていたからです。もし、実際にそういう手紙が届いたと住民に知れたら、みんな怖がり、純粹に阿真キャンプ場を守りたいと思う人が声をあげられなくなると心配したためです。しかし、島内外からの圧力もひどくなり、2回目の手紙を受け取った頃には、精神的につらくて仕方なくなり、陳情者でもある島の先輩に打ち明けたところ、「なぜ、黙っていた。これは、島のみんなの問題だから、みんなで解決しよう」と言っていたら、今回の参考人招致で、勇気を出して明らかにしました。が、今でも怖いんです。

→キャンプ場ができた約50年前から、地主の島の先輩方は、村との賃貸契約を守り、バブル期などの島外からのリゾート開発等の手にも渡さず、観光資源であるここ一帯の自然を、島の宝としてみんなで守ってきたからこそ、国立公園にも指定されたと自負しています。島には平地が少なく、小さな島の限られた平地は有効利用すべきで、何も建っていない多目的広場は、今後の島の観光振興にも可能性のある場所で、未来の子どもたちに残したい場所です。

とっております。

58'30"

【糸洲朝則委員】 今の3つの候補地は、2か所は企業局も選定していたという経緯がありますから、そこは企業局、村当局あたりとじっくり話し合いをしたということはあるでしょうか？意見交換でも。

58'45"

【中村毅会長】 じっくりとはございませんが、自分たちは、旧ゴミ捨て場については、ちょっと素人なりに見ても、地面の中に何が入っているか分からないということもあります。既存のヘリポートと隣接したところの浄水場ございますが、先月、課長と一緒に現場を見に行き、ヘリポートの方は、伐採はしなくてはいけないわけですが、土砂崩れが起こるような場所ではないです。ただ、それに関しては、ヘリポートは移転しなくてはなりません。ただ、個人的なことですが、私、去年6月に大ケガしまして、急患のヘリでヘリポート経由で運ばれたことがあって、ストレッチャーに乗っている時に、山道を登る もんですから、わーっと振動がすごくて、時間もかかって、これはもっと平地にヘリポート移したら、老人も安心できる などということを実感したということはある。

59'55"

【糸洲朝則委員】 いずれにしても、広く言えば、場所は村民が決めることだと思うんですよ。だから村長にも提案しようかと思っておりますが、例えば、「場所選定委員会」を作って、新石垣空港を造った時のあの手法ですよ。それぞれの意見を述べて、採点方式でやって、今のところに決まった。これを今回の場所選定でやってみると、これは今後の座間味村においていろんな開発もあると思うから、施設整備にとって、大きな試金石になると思うんですが、いかがですか？

100'45"

【中村毅会長】 村と積極的な話し合いができれば、当然、そのようにいたします。

1'01'00"～

→実際に、海での急患やあまり動かさない患者の場合になど、これまでに、ビーチの近くや港にドクターヘリが降りた実績が何回もありますので、ヘリポートも同時に、適地へと見直されたら、一石二鳥でありたいです。

【山内末子委員】今日は、本当にありがとうございます。一番最初に、中村さんが言った「今の混乱がとても残念でならない」というこの言葉がとても胸に迫ります。人口 600 人の中で、皆さん方が、もしかしたら賛否両論で二分されているような状況もあるのかなど。少し経緯が変わってきていますので、皆さん方から **6 割 8 割の署名** の感じだと伺っていますけども、今もそのような感じだと思ってよろしいですか？その時の想定はちょっと違っていましたよね。今の現状との違いをお願いします。

1'02'00"～

【中村毅会長】その後、署名活動は行っていないので、もちろん道で会って話するくらいしかありませんが、**住民の方は、全く気持ちは変わっていない**と思います。

1'02'15"～

【高松明日香会長】補足いいですか？今までは、阿真キャンプ場を重要な観光地として守りたいというところの思いが強かったので、そこでの見直しを求めるものでもあったんですが、**今は津波という災害の話にもなっている**ので、観光業に携わっていない人たちも、それだったら高台がいいよねということで、数はとってないですけども、この**署名をした時よりも見直しや高台にという声は増えているような感じ**はあります。

1'02'45"～

【山内末子委員】候補地を巡って、内容証明が送られてきたりということで、いろいろと今、県が想定している場所については、**観光の面、経済的な面、子どもたちの教育の面、そして津波の被害ということ**を考えると、**少し県の最初の見通しが甘かった**のかなど、私個人的には思うんですが、かといって、水は絶対必要ですし、命の水ということで、これからますます観光客が増えていけば、重要性を帯びていく中で、早めの建築ということ考えた場合、いったい、**どのような決着点を見つけなければならない**のかということが、私たちも重要だと思っていますが、その辺について、皆さんが想定する高台については、自然災害の、そこを開発することによって、**新たなる土砂災害**だったり、**国立公園における環境破壊**とか、その辺の**心配**は、皆さんの方では考えていないのか、それぞれの状況を、少し説明を

→1月24日の第3回住民説明会でも、**多くの住民が「高台への変更」**を希望しました。阿真キャンプ場での建設の見直しを求める住民は、11月に行った座間味島の住民(成人)のみを対象にした署名活動で、**成人 479 名中 278 名(58%)、95 観光事業所中 76 事業所(80%)**が見直しを求めています。(12月10日時点・成人 479 は島民約 600 名から、未成年と、村職員、教職員を除いた数)

→阿真キャンプ場は**鱈業の衰退から島を救った観光業の礎**となった場所。島の中でも特に自然が豊かで、それを身近に実体験できるキャンプ場として国内外から人気が高く、キャンプ場を中心とした陸域から「世界が恋する海」を象徴する海域全体が、**最も重要な自然観光エリア**です。現予定地の多目的広場は、**広々とした草原**で、観光客に**解放感や癒し**を与え、**珍鳥ヤツガシラ**など渡り鳥が羽を休める**貴重な探鳥地**でもあり、子どもたちの自然体験や**環境教育の場**にもなっていて、夜には、静寂の中で満点の**星空や蛍**が観察できます。さらに、**水難事故**など緊急時には**ドクターヘリが離発着**する、まさに**多目的に活用**されているキャンプ場の一角です

→候補に上がっている高台は、すべて『**第三種特別地域**』で、自然公園法の**特別地域**の中で**ランクは一番低い**ため規制は少なく、「特別地域のうちでは、**風**

お願いします。

1'04'05"～

【大城晃副会長】 お手元にお配りしている3つの高台案で、右側の「旧ゴミ捨て場」、そこはゴミを捨てていた場所なので、土壌地盤の強度がないです。それから、左側の「阿真チジ」そこは座間味の西区と阿真区の避難場所になっているので、村との協議が必要だと思います。ところが、高月山の現浄水場の隣にヘリポートがあつて、ヘリポートはコンクリートが敷かれているので、村有地でもありますが、大きな開拓工事をするものではないと思います。したがって、被害や景観の問題とか最小限に抑えられるものだと思っております。

[1部（参考人招致／陳情者）終了] 次は、参考人招致／村長

致を維持する必要性が比較的低い地域です。もちろん、自然破壊はできるだけしない方がいいですが、既存の水道施設や電波塔、ヘリポートや遊歩道など人工物があつたり、数十年前は全面的に伐採された二次林だったり、すでに人の手が入っていて自然度は低い場所です。公益性と必然性が認められれば、浄水場建設の許可は出ると考えられます。

→今回の本島周辺離島8村のうち、座間味島以外の島のほとんどが、津波被害を受けない高台に浄水場が造られます。5～10mもの甚大な津波被害が想定される場所に浄水場が造られるのは、座間味島だけです。